

地域総合情報月刊誌「月刊奈良」 2022年10月号

特集「平城宮跡史跡指定100年の物語」

発行；令和4年(2022)10月1日 現代奈良協会 ID311337162

『月刊奈良』は「奈良の素材の本質」を皆様にお伝えして参ります。

『月刊奈良』の創刊は昭和36年(1961)6月。60年以上もの長きにわたって発行が続くのは、奈良県を中心とした皆さま方の熱いご指示の賜物と感謝しています。

これからも「奈良の素材の本質」を軸に、皆さまにお伝えして参ります。今号の特集は「平城宮跡 史跡指定 100年の物語」です。

平城宮跡 史跡指定 100年の物語

令和4年(2022)は、平城宮跡が国の「史跡」に指定されてから100年という記念の年。そんな今、平城宮跡と時代ごとに奔走した先人たちの思いに触れてみたい。

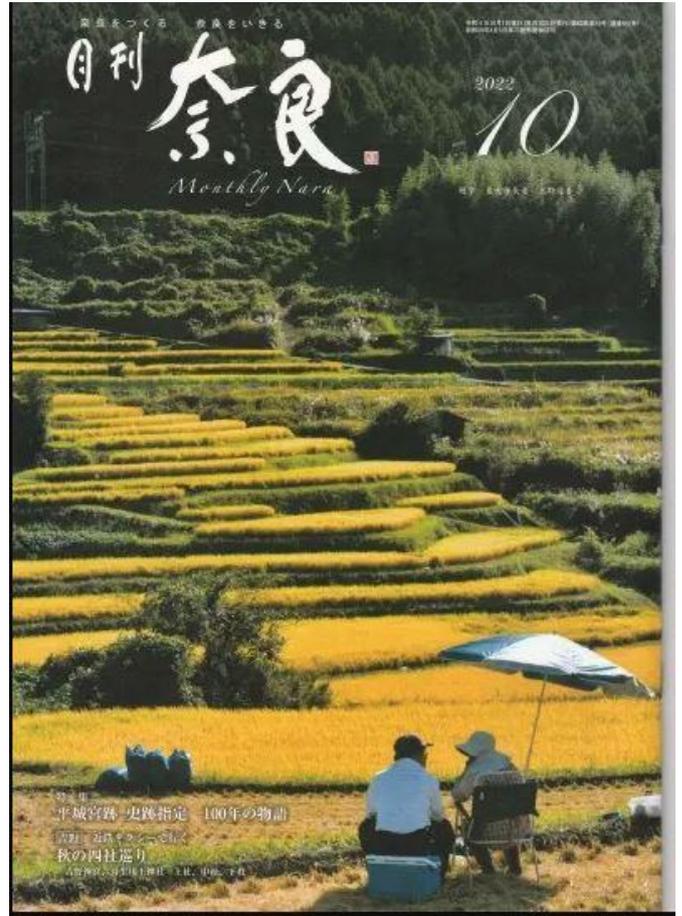
平城京の研究が始まったのは、江戸時代の終わりごろ。明治時代になると、東京帝国大学建築史研究学者：関野貞が明治32年(1899)平城宮跡を踏査し、大極殿とみられる建物の基壇跡が残っていることに驚いた。(地元に残る伝承「大国の芝」とよばれる芝地の土壇)

明治34年(1901)大極殿土壇に標木を建てる。

(右写真 周りは水田)。大正2年(1913)奈良大極殿址保存会発足、大正8年史跡名勝天然記念物保存法成立、大正11年(1922)平城宮跡が史跡指定された。

その後、民間で保存運動が始まり文化財として保護の動きとなる。

昭和25年(1950)文化財保護法制定、昭和27年(1952)平城宮跡は特別史跡に指定。昭和34年発掘作業再開し、奈良時代の役所跡が見つかり木簡はじめ多数の遺物出土。平成30年(2018)国営平城宮跡歴史公園が開園。



大極殿 古写真 明治四十一年(1908)頃

土壇に標木を建てた。

周りは水田で奥には生駒山を望む

「奈良県名勝写真帖」所収、奈良県立図書館蔵